

令和3年度病害虫発生予察注意報第8号

令和3年8月17日
愛知 県

作物名：キャベツ、ダイズ
病害虫名：シロイチモジヨトウ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

(1) キャベツほ場に設置したフェロモントラップにおける7月第1半旬から8月第2半旬までの総誘殺数が、豊橋市で806頭（平年404.8頭、前年362頭）と過去10年間と比較して2番目に高く、田原市で1,235頭（平年612頭、前年1,614頭）と過去10年間と比較して3番目に高かった（図1）。

(2) 8月上旬にダイズほ場で実施した巡回調査において、本虫の寄生株率は9.0%（3地点6ほ場の調査）であった。本虫の寄生は近年増加傾向である。

(3) 8月12日名古屋地方气象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は、平年並か高いと予想されており、本虫の発生に好適な条件である。

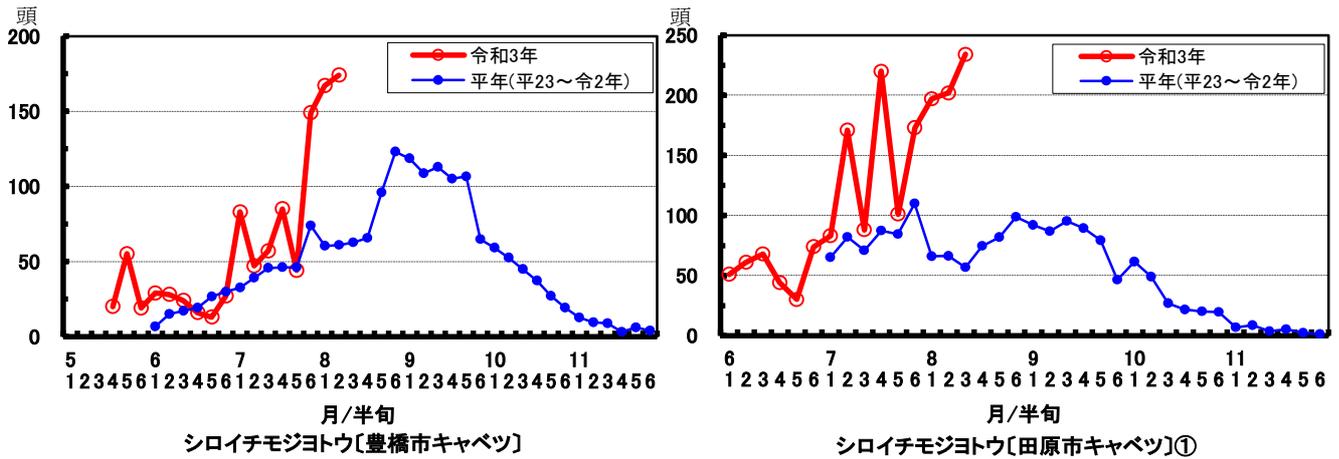


図1 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数

4 形態及び発生生態

成虫は暗灰褐色、体長約12mmの蛾で、前翅の中央部に黄褐色の円形斑紋がある（図2）。卵は黄褐色、約0.5mmのまんじゅう型、卵塊で産卵され、表面は灰褐色の毛で覆われる。幼虫の体色は多様で、緑色から黒紺色まで個体差が大きい。老齢幼虫になると、腹部の側面の線が白く明瞭になり、気門線の腹縁部が桃色を呈し、体長約30mmとなる（図3）。

ふ化後しばらくは集団で生息し、齢が進むにつれて次第に分散する。成虫は4月から11月頃に、年4～5回発生する。非常に広食性で、キャベツのほか、ハクサイ、ダイコン、ネギ、ハウレンソウ、ダイズなど、50種以上の野菜類や花き類におよぶ。

近年、本県でも本虫によるダイズへの加害がみられるようになった（図4）。



図2 成虫



図3 老齢幼虫



図4 ダイズに寄生するシロイチモジヨトウ

5 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の寄生を確認したら、表を参考に速やかに防除する。
- (2) 齢の進んだ幼虫には薬剤効果が低下するため、若齢幼虫のうちに薬剤防除する。
- (3) 本虫は寄生範囲が広く、ほ場周辺の雑草は増殖源になるため除去する。

表 シロイチモジヨトウに対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
キャベツ	プレオフロアブル	ピリダリル	収穫7日前まで	2回以内	UN
	コテツフロアブル	クロルフェナピル	収穫前日まで	2回以内	13
だいず	プレオフロアブル	ピリダリル	収穫7日前まで	2回以内	UN

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf を参照する。
 薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

6 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 内線471